令和7年度 施政方針

令和7年度の予算及び関係諸議案のご審議をお願いするにあたり、私の市政運営に対する基本的な考え方と新年度における施策の大要を申し述べ、議員各位及び市民の皆様のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

【 I 基本的な考え方】

市民の皆様の負託を受け、市長として市政をお預かりすることになり、6年9か月が経ちました。その間、新型コロナウイルス感染症対策に苦慮した一方、市民の皆様とともに華々しく市制100周年をお祝いしたことなど、様々な出来事を経験しながらも、「誇り高いまち沼津」の実現に向けて、市民の皆様と一丸となって人・まち・自然が調和し、躍動するまちづくりを進めてまいりました。

その中でも、本市のまちづくりの中核をなす沼津駅周辺総合整備事業につきましても、鉄道施設本体工事の第一弾となる新貨物ターミナル工事に続き、その第二弾として、昨年11月に新車両基地の工事に着手し、将来のまちの礎が着実に築かれてきております。

中心市街地におきましても、町方町・通横町第一地区第一種市街地再開発事業が本格的に動き出すとともに、大手町五丁目第一地区第一種市街地再開発事業を新たに都市計画決定したほか、沼津駅南口交差点東側の地上横断化工事が本年3月に完成いたします。また、イシバシプラザ跡地への商業施設の進出が報道されるなど、本市の顔である沼津駅の南北に変化が表れ、都市機能の強化に向けた取組が進められております。引き続き、沼津駅周辺における公共空間再編や中央公園の再整備などに取り組み、ヒト中心のまちづくりを推進してまいります。

また、昨年開催された「パリ2024オリンピック・パラリンピック」において、フェンシング競技では本市で合宿を行った選手たちが5つのメダルを、また、車いすラグビーでは本市出身の選手が金メダルを獲得するという、歴史的快挙を挙げたことを大変誇らしく思います。現在、

「フェンシングのまち沼津」の推進や各種プロスポーツと連携した取組など、スポーツを活かしたまちづくりが着実に進んでおり、まちに活力を与えております。

文化の振興につきましても、本市出身の俳優が主催した「しずおか映画祭」が市民文化センターで盛況のうちに開催され、若い力により、本市から映画文化の発信がなされるなど、市民の皆様の芸術文化に対する気運が高まっております。この流れをより一層加速させるべく、芸術文化を身近に感じ親しむことができるよう支援に取り組むとともに、歴史文化資源の保存・活用を図ることで、活力あるまちづくりを力強く推進してまいります。

また、聖地巡礼はもとより、聖地移住など多くの分野で注目を集めている「ラブライブ！サンシャイン!!」をはじめとしたアニメコンテンツにつきましても、国内のみならず国外からも広く認知される魅力として確実に定着しているだけでなく、コンテンツを活用したまちづくりが全国における先進事例として注目されております。

これら本市ならではの魅力を官民一体となって大切に育て、発信することにより、更なるにぎわいの創出に取り組んでまいります。

加えて、時代の変化に伴う労働力人口の減少や産業構造の変化を見据えながら、積極的に企業を誘致するとともに、事業承継の促進や各種産業の新たな担い手確保など、産業振興策を推進してまいります。

さらに、子育てにやさしいまちを目指し、休日の一時預かりサービスの拡充や、2人以上子どもがいる世帯に対する保育料の負担軽減など、妊娠、出産、子育てまでの切れ目ない支援の更なる充実を図り、安心して子どもを産み育てることができるまちづくりを推進してまいります。

このように、様々な都市基盤の整備が進み、多くの方が笑顔でいきいきと活動している姿がまちにあふれる元気な沼津を目指して、持続可能なまちづくりに全力で取り組んでまいります。

以下、新年度において重点的に取り組むべき4つの視点について、ご説明申し上げます。

1つ目は、「暮らしやすいまちへ」です。

都市の活力や発展を支える定住人口の確保に向けては、出生数の減少傾向を抑制し、転入超過を維持する必要があります。このため、結婚を望む方への支援や誰もが安心して妊娠、出産、子育てできる環境の整備、都市的魅力や利便性の向上、民間発意によるまちづくり活動の支援など、沼津に住みたい、住み続けたい、そして関わりたいと思えるまちづくりを推進してまいります。

2つ目は、「ひとが行き交うまちへ」です。

にぎわいの創出や地域経済の活性化につながる交流人口や関係人口の拡大に向けては、本市ならではの特色を活用した魅力的な施策を進めることが必要です。需要が高まっているインバウンドの促進や地域資源を活用したツーリズムの磨き上げ、台湾との観光を中心とした相互交流、移住施策の更なる推進などに取り組み、多くの来訪者を惹きつけるまちづくりを進めてまいります。

3つ目は、「産業が元気なまちへ」です。

産業を元気にすることは、雇用の拡大や地域経済の活性化をもたらし、市民の豊かな生活につながる大変重要な施策であります。本市への移転を検討する企業に対する支援を積極的に行うとともに、市内企業への就職促進や魅力ある商店街の創出に向けたリブランディング、起業創業の支援など、産業振興策に積極的に取り組んでまいります。

4つ目は、「安全・安心のもとで暮らせるまちへ」です。

近年頻発している大規模な自然災害や複雑多様化する犯罪などは、市

民生活に大きな不安を与えております。引き続き、豪雨災害に対する総合的な治水対策を進めるほか、南海トラフ巨大地震等に備えた耐震化の促進や、タイムリーな災害情報発信の仕組みづくり、特殊詐欺対策など、誰もが安全・安心を実感して暮らすことができるよう、適切な対策を講じてまいります。

新年度におきましては、これらの視点を踏まえつつ、「第5次沼津市総合計画」に定める「動き出す 創り出す」、「誇りとつながり」、「心も体も元気で健康」という基本理念のもと、活力ある沼津の創造を目指します。

以下、新年度における主な取組について、「第5次沼津市総合計画」の8つのまちづくりの柱に沿って説明いたします。

【Ⅱ 新年度の主な取組】

＜柱1 自分らしいライフスタイルを実現できるまち＞

初めに、「柱1 自分らしいライフスタイルを実現できるまち」についてであります。

少子高齢化、人口減少が進む中で、市民生活や地域活動が充実し、誰もがいきいきと輝き躍動できるまちづくりを進めてまいります。

窓口対応における言葉のバリアフリーに配慮した窓口字幕表示システムの導入など、現代のデジタル技術を活かし、行政サービスの効率化と市民の皆様の利便性向上を目指してまいります。

社会のつながりやコミュニティの強化につきましては、地域住民の活動・交流拠点である市内18の地区センターのうち、西浦地区センターの附帯工事を引き続き進めるとともに、愛鷹地区センターの新築工事に着手するなど、地区センターの再整備を進めてまいります。

また、月2回発行している広報ぬまづを全号カラー化するとともに、LINE公式アカウントの機能を拡充するなど、市政情報をより分かりやすく効果的に発信することで、これまで以上に「伝わる」広報に努めてまいります。

＜柱2 ヒト中心で都市的魅力にあふれるまち＞

次に、「柱2 ヒト中心で都市的魅力にあふれるまち」についてであります。

ヒトに優しい、魅力的な都市空間の形成を図るとともに、道路交通体系や住環境の整備に取り組むなど、居心地がよく、快適で暮らしやすいまちづくりに取り組んでまいります。

鉄道高架事業をはじめとする沼津駅周辺総合整備事業につきましては、鉄道施設本体工事の第二弾となる新車両基地工事が昨年11月に着工されました。新貨物ターミナル及び新車両基地において、静岡県及び鉄道

事業者と協力し、更に整備を進めるとともに、施設周辺の都市基盤の整備に努めてまいります。また、沼津駅周辺におきましては、新たなまちなみを形成する静岡東部拠点第二地区土地区画整理事業を推進するとともに、将来の新駅舎・駅前広場・高架下空間を質の高い一体的なデザインにするため、デザイン基本計画の策定に取り組んでまいります。

居心地よく質の高い都市空間づくりにつきましては、沼津駅周辺のまちづくりと連携して、中心市街地に位置する中央公園を更に魅力ある空間へ再整備するため、芝生広場やトイレ等の工事に着手してまいります。

また、「沼津市中心市街地まちづくり戦略」等と連動した活動を促進するため、市民や事業者の皆様が行う民間まちづくり活動について、まちなかの魅力づくりに寄与する取組への支援を進めてまいります。

さらに、歩行空間の整備による中心市街地との回遊性の向上等を図るため、世界かんがい施設遺産に登録された「香貫用水」の景観に配慮した沿道整備に着手いたします。

快適な住環境の整備につきましては、既存建築物の解体が進み、新施設の建設工事着手が予定される町方町・通横町第一地区第一種市街地再開発事業や、事業認可申請に向けた資金計画の作成が予定される大手町五丁目第一地区第一種市街地再開発事業など、地元組合が取り組む再開発事業を継続して支援してまいります。

さらに、沼津版スマートシティであります「X-Tech NUMAZU」の取組の一環として、沼津駅－沼津港間において自動運転レベル4の実現を見据えた技術検証を行うなど、本市が目指す持続可能な都市構造「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを推進いたします。

< 柱3 力強い産業を牽引するまち >

次に、「柱3 力強い産業を牽引するまち」についてであります。

企業立地環境の整備や支援体制の充実、多様な人材の確保、起業創業、

魅力ある商店街づくりの推進など、沼津ならではの強みを活用した産業振興に取り組み、産業の強化や雇用の創出につなげてまいります。

企業立地の促進につきましては、引き続き、本市への進出を予定する企業に寄り添った支援を行うとともに、首都圏のIT企業等を対象にした視察ツアーを開催するなど、積極的に企業誘致を進めてまいります。

労働人材の確保につきましては、地元企業が大学等に出向き、直接、学生に自社をPRする機会を拡大するほか、引き続き、若年求職者のU・I・Jターン就職推進のため、合同就職面接会を開催するなど、若い世代を含む多様な人材の確保に取り組んでまいります。

また、カスタマーハラスメント対策セミナーや高校生を対象とした起業セミナーの開催などにより、働きやすい職場環境や創業機運の醸成を図ってまいります。

商業の振興につきましては、魅力ある商店街の創出に向け、エリアや個店のリブランディングの方向性及び手法を検討する「リブランディング企画塾」を開催し、人流データを活用した販売戦略を検討してまいります。

農林水産業の振興につきましては、引き続き、スマート農業技術を導入する市内農業者への支援を行うとともに、本市の内浦・西浦漁港を活用して、マリンレジャー・宿泊・飲食等の多様な海関連の事業を展開し、水産業従事者等の所得・雇用の維持向上やにぎわい創出に寄与する「海業」を実施するための推進計画を策定してまいります。

また、本市農林水産業の健全な発展を図るため、新たに就業フェアに出展するなど、新規就業者の確保を推進してまいります。

< 柱4 地域の宝を活かすまち >

次に、「柱4 地域の宝を活かすまち」についてであります。

本市ならではのまちの強みや地域資源を活かし、多くの方々が訪れたい、関わってみたい、住みたいと思っただけのまちを目指してまい

ります。

インバウンドの推進につきましては、昨年12月、高雄市との観光交流促進協定の締結など、連携強化を進める台湾をターゲットとした観光誘致に向け、インフルエンサーや現地旅行事業者を招へいするファミトリップを実施するなど、旺盛なインバウンド需要を積極的に本市に取り込むための施策に取り組んでまいります。

更なるにぎわいの創出としましては、本市と三島市、静岡クラフトビール協同組合で組織する「東駿河湾クラフトビール地域循環共生圏推進協議会」において、特徴的な地域資源であるクラフトビールを活用した地域の魅力向上と地域循環社会の形成に取り組んでまいります。

沼津港の振興につきましては、内港浮さん橋の利活用促進に向けた市民向けのヨットの乗船体験イベントの実施や、様々なライトアップ演出が可能となった沼津港大型展望水門「びゅうお」を活かし、新たなナイトスポット化を進めるなど、昼夜とも更なる沼津港のにぎわい創出に取り組んでまいります。

中心市街地に隣接し、多くの皆様に親しまれる憩いの場である香貫山におきましては、ハイキングコースの整備や危険木の伐採などの保全に取り組むことで、エリアの魅力向上を図ってまいります。

歴史・文化資源の保存と活用につきましては、国指定史跡となった高尾山古墳の用地取得を行うとともに、保存活用計画を策定するほか、国指定史跡長浜城跡開園10周年記念として、長浜城跡関連の講演会や歴史や自然をテーマにした子ども向け体験イベントを実施するなど、文化財の活用に取り組んでまいります。

また、津波浸水想定区域内に立地する戸田造船郷土資料博物館について、移転に向けて整備基本計画を策定してまいります。

移住・定住の推進につきましては、本市の魅力を感じることができる体験型バスツアーを実施するほか、移住就業支援補助金について、大学生等の就職に伴う移住を支援するため、引越しにかかる費用を新たに補助いたし

ます。

＜柱 5 安心して子どもを産み育てられるまち＞

次に、「柱 5 安心して子どもを産み育てられるまち」についてであります。

出会いから子育て期にわたり切れ目のない支援を充実させ、安心して子どもを産み育てられる環境の整備を推進することで、少子化の抑制を図るとともに、未来を担う子どもたちの教育の質の充実を図るため、学習環境の充実や安全で安心して学べる環境づくりを進めてまいります。

安心して産み育てるための支援につきましては、結婚を望む方への支援として、本市の地域資源を活用した出会いの機会を創出する婚活イベントを開催いたします。

また、乳幼児の健康の保持及び増進を図るため、1 か月児及び 5 歳児の健康診査を新たに実施いたします。

さらに、2 人以上子どもがいる世帯の子育てに係る経済的な負担を軽減するため、第 2 子の保育料を世帯の状況を問わず一律半額とするほか、沼津っ子ふれあいセンター「ぼっぼ」について、休日の一時預かりサービスを拡充するなど、利用者ニーズに即した子育て支援の充実を図ってまいります。

未来を担う人づくりにつきましては、現在の教育大綱及び教育基本構想の期間が令和 7 年度末で終了することに伴い、子どもたちを取り巻く社会の変化を踏まえ、今後の本市の教育の方向性をお示しする新たな「沼津市教育大綱」及びこれに基づき具体の施策を定める「沼津市教育基本構想」の策定に取り組んでまいります。

また、公立中学校部活動の地域展開に向けて、学校に代わって指導を行うクラブの創設促進及び運営支援を行うため、関係団体により運営される「(仮称)ヌマカツ推進事務局」を設置いたします。

<柱 6 笑顔があふれ健康で心豊かに暮らせるまち>

次に、「柱 6 笑顔があふれ健康で心豊かに暮らせるまち」についてであります。

誰もが心身ともに健康で明るく元気に生活できるよう、スポーツ・芸術文化の振興や健康づくりなどを推進するとともに、互いに支え合いながら健やかに暮らせる、地域共生社会の実現を目指してまいります。

スポーツの振興につきましては、市内において実施される交流促進に寄与する新たなスポーツ大会を支援するほか、ストリートスポーツパークについて、より気軽にアーバンスポーツを楽しめるよう施設の拡張整備を行うなど、更にスポーツを活かしたまちづくりを推進してまいります。

芸術文化の振興につきましては、本市の文化の殿堂である市民文化センターにおいて、芸術文化を次世代に継承するため、子ども向け芸術文化体験事業を行うとともに、計画的な施設改修工事に取り組むことで、その利活用を推進してまいります。

子どもの健康の推進につきましては、定期接種券発行の対象を、日本脳炎ワクチンは3歳以上から生後6か月以上に、HPVワクチンは中学1年生以上から小学6年生以上に拡大いたします。

高齢者に優しいまちづくりにつきましては、フレイル対策の一環として、保健・医療専門職が対象者宅を訪問して、生活機能に関する問題を総合的に把握、評価し、社会参加を高めるために必要な相談・指導等を実施するなど、リスク要因となる生活習慣の改善を図ってまいります。

誰もが暮らしやすいまちづくりにつきましては、障がいのある方が安心して生活するための各種障がい福祉・保健医療サービスの充実や生活困窮等に関する相談支援に加えて、様々な福祉分野の制度の狭間で対象とならない世帯が抱える、複合化した生活課題を包括的に受け止めるため、支援が行き届かない方等に、積極的な働きかけを行いサポートするなど、課題解決に向けた重層的な支援に取り組んでまいります。

＜柱 7 安全・安心のまち＞

次に、「柱 7 安全・安心のまち」についてであります。

災害に強い強靱な地域づくりに取り組むとともに、犯罪や消費生活トラブルから市民の皆様を守るための取組を進めるなど、誰もが安心して暮らすことができる安全・安心なまちを目指してまいります。

災害に強いまちづくりにつきましては、昨年 8 月に着工した大平江川排水機場整備に加え、新たに沼川・高橋川流域の井戸川雨水貯留池整備を実施するなど、常襲浸水地域における浸水被害を更に低減できるよう治水対策を進めてまいります。

また、地震による建物の倒壊被害の発生を防止するため、引き続き建築物の耐震診断・耐震補強工事・非耐震木造住宅の除却等を支援してまいります。

さらに、大規模な自然災害から市民の皆様の安全・安心な生活を守るため、SNS を利用して災害情報を収集・発信する仕組みの導入や、災害情報共有システムの本格運用などの防災 DX の活用、津波避難タワーへの夜間照明灯設置等の津波対策のほか、昨年 11 月に開始した住宅への感震ブレーカー設置補助などを進めてまいります。

共助の要となる自主防災力の向上につきましては、防災訓練や自主防災会への補助等を引き続き行うとともに、消防団第 10 分団詰所に女性専用トイレを設置するなど、消防団の活動環境整備にも努めてまいります。

市民の安全・安心の確保につきましては、複雑化・巧妙化する特殊詐欺や悪質商法による被害を未然に防止し、市民の皆様が被害者となることはもちろん、自らが加害者とならないよう、沼津警察署をはじめ関係機関・団体等と連携・協力し、啓発に努めるとともに、消費生活相談体制の強化等を図ってまいります。

＜柱 8 環境と共生する持続可能なまち＞

最後に、「柱 8 環境と共生する持続可能なまち」についてであります。

市民、事業者、行政がそれぞれの役割のもと環境保全に向けた活動などに連携して取り組むことで、環境と共生する持続可能なまちを実現し、本市の美しく豊かな自然環境を次世代に継承してまいります。

豊かで美しい海岸と渚づくりの推進につきましては、台風等大雨のたびに堆積し、景観を損ねている流草木を効率的に撤去するため、ビーチクリーナーを新たに導入するとともに、海岸清掃を行うボランティア団体の負担軽減と活動の支援をするための貸出用クローラーを配備いたします。

環境への負荷の低減につきましては、公共施設への太陽光発電設備等の導入促進などに引き続き取り組むほか、低炭素交通を推進するため、共同利用型充電サービスを利用している事業者へのEV導入補助を行っておりますが、補助の対象をその他の事業者にも拡充することで、「ゼロカーボンシティNUMAZU2050」の実現に向けた取組の裾野を更に広げてまいります。

資源循環型のまちづくりにつきましては、3Rの推進の一環として、フリーマーケットサイトを活用した再利用可能な廃棄物の売却を開始し、ごみの減量、循環型社会の実現を図ってまいります。

また、将来にわたり環境負荷の少ない安定したごみ処理を推進するための新中間処理施設の整備に向けて、敷地造成工事を進めるとともに、本年1月に決定した事業者が行う施設の実施設計に関する監理業務に取り組むなど、着実に事業を推進してまいります。

【Ⅲ 行財政運営】

以上、令和7年度における施策の概要についてご説明いたしました。

新年度の予算編成にあたりましては、事業の重要性や必要性、費用対効果等の視点を踏まえ、限られた財源を効果的・効率的に配分するための精査や財源の確保に努めました。

この結果、新年度の一般会計及び特別会計4会計並びに企業会計3会計を含む予算全会計の合計は、1,658億1,300万円で、前年度に比べ、73億100万円の増となりました。

このうち、一般会計につきましては、前年度に比べ8.7%増の956億円、特別会計につきましては、前年度に比べ1.2%減の404億8,200万円、企業会計につきましては、前年度に比べ0.5%増の297億3,100万円となったものであり、引き続き健全な財政運営に努めてまいります。

組織体制につきましては、幼児教育・保育を一体的に行い、子どもたちの発達に重要な集団形成を推進するため、こども未来創造課の「大平保育所」及び「大平幼稚園」を廃止し、同課に幼保連携型認定こども園の「大平こども園」を新設いたします。

また、公立中学校の部活動の地域展開に向けた推進体制を強化するため、教育企画課に「部活動地域展開推進担当」を新設いたします。

さらに、職員の育成及び採用に係る推進体制を強化するため、人事課の「人事・研修係」を廃止し、同課に「人事係」及び「採用・育成担当」を新設いたします。

加えて、業務の生産性向上を推進し、職員の働きやすさの改善を図るとともに、市民ニーズを的確に捉えたサービス提供に繋げる体制の強化を図るため、政策企画課の「調整係」を「行政イノベーション係」に改めます。

そのほか、市立病院の救命救急に関する業務を、診療部で一体的に行う組織とするため、市立病院の「救命救急部」を廃止し、診療部の「救急（ICU）科」を「救急科」に改めるほか、市民や事業者の皆様にとって、担当業務がわかりやすい組織とするため、住宅政策課の「空き家対策係」を「空き家・耐震対策係」に、「学校管理課」を「学校施設課」に改めます。

以上、令和7年度に臨む施政方針を申し上げます。

市民の皆様には、市政に対する一層のご理解をいただくとともに、まちづくりへの更なる参画をお願いしたいと思います。

最後になりましたが、今後とも、ご列席の議員各位のご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。